

第 16 回 昭和の森 秋の子ども観察会

会えるといいね！ 秋の元気な虫

日 時：2009 年 10 月 18 日（日）9:30～12:30 天候：晴

参加者：子ども 19 名、大人 12 名 計 31 名

担当指導員：

木下順次、花島伸美、山下美佐子、小林義和、山田益弘、
後藤菊子、佐野由輝、田邊裕美、武田宏子

山下 美佐子（東金市）

資料の表紙



今回の秋の子ども観察会は、『秋の元気な虫』をテーマにしました。

「春はテントウムシや蝶、暑い夏はカブトムシやセミなどが元気ですね。さて、秋の元気な虫は何かなあ？ 今日秋の虫をたくさん観て、一番元気な虫を見つけましょう」と、冒険広場の草地に足を踏み入れました。子ども達の網には、次々とバッタやコオロギ、チョウ、赤トンボなどが捕まりました。捕まえた虫は、網から透明カップに入れ替え、バッタやキリギリスの耳の位置を観たり、触角の長さなどを確認したりして、バッタの仲間とキリギリスの仲間の区別をしました。また、トンボが腹の気門で息をしている様子を観たり、トンボやバッタなどの口元に草を与えて口を開ける様子を観察したりしました。

どんぐりの木の下で、「このどんぐりの名前は？」の問いに、拾ったどんぐりと同じどんぐりを図鑑から探し出して、名前が「コナラ」とわかりました。どんぐりにはたくさんの種類があることもわかりました。どんぐりを割ってみたら、白いウジムシを発見。「この虫はな～に？」の疑問に、どんぐり虫（コナラシギゾウムシ）の一生を絵で説明。また、私たちの暮らしとどんぐりとのかかわりを「どんぐりと私たち」の絵を見ながらのクイズ。子ども達といっしょに保護者の方達にも考えてもらいました。

次はくつつき虫（オナモミ）です。お互いの洋服にくっ付け合いをしたり、顔の絵を描いたりして遊びました。また、カラムシの葉っぱが大好物のフクラスズメ（幼虫）のフラダンス見物や、ジョロウグモのオスとメスの区別、糸の残骸から何を食べたかを考えました。調整池では、アカガエルや大きなウシガエルのオタマジャクシを直に触ってみて、ぬるぬるした感触にびっくりしました。

今回の振り返りは、感想の発表ではなく、自分の資料に書き込みや虫シールの貼りこみをして、自分が思った一番元気な虫を資料に書いてもらいました。

好天に恵まれ、バッタの仲間、カマキリの仲間、コオロギの仲間、スジグロシロチョウなどチョウの仲間、ナツアカネなど赤とんぼの仲間、ナナホシテントウ、くつつき虫？どんぐり虫など、たくさんの虫に出逢えて、子ども達は満足の笑顔で解散しました。



くつつき虫で遊びました



ウマオイのメス：産卵管